



## 当院における特定ケア看護師の 役割と課題

益田地域医療センター医師会病院 特定ケア看護師 山崎綾乃

### はじめに

はじめまして。島根県の西部の益田市という人口約4万5千人の地域で特定ケア看護師(NDC)として勤務している山崎綾乃と申します。私の勤務している益田地域医療センター医師会病院(以下、益田医師会)は、一般病棟60床、地域包括ケア病棟60床、回復期リハビリテーション病棟44床、特殊疾患病棟48床、地域療養病棟44床、介護医療院44床、さらに老人保健施設も併設しております。私は当院に入職し一般病棟で5年勤務した後、2018年度からNDC3期生として研修を受けさせていただきました。

現在は、一般病棟(内科・外科・整形外科・婦人科・耳鼻科の混合病棟)に勤務しています。日々看護師としての業務や指導、また特定ケア看護師としても働いています。

### NDCを知ったきっかけと挑戦した理由

私がNDCという看護師を知ったのは、看護師として4年目の時期だったと思います。当時、看護師としてもっとできることはないか、スキルアップのため何か資格をとるべきか、今後どんな風に働いていこうかと漠然と悩んでいました。このままでいいのか…という不安もありました。医師の人数が減り、当時外科病棟で勤務していましたが、外科の先生は1人、内科の先生も1人だけでどう考えても医師不足でした。先生方が忙しいことはもちろん、看護師も毎日先生を待ち、なんとか先生が来るまでどうにか対応をしているという感じでした。看護師が待っているということは、多くの患者さんも

先生を待ち続けていました。そんな時、看護部長よりNDCについて話を聞きました。この時初めて、NDCというものを知りました。

当時の私は、もっと私ができることはないのか、看護師としてできることを増やしたいと思っていたので、“NDCに挑戦してみたい”と思いました。

医師の負担軽減、そして医師不足の中、悩みながら働いている看護師にいい影響を及ぼすことができれば…そして患者さんのためになればと思い研修への参加を決意しました。

### 当院における特定ケア看護師の役割

当院には5人の特定ケア看護師がいます。4人が病棟勤務で、1人臨床工学技士の資格も持っており特定ケア看護師として透析室に勤務しています。看護師の数が足りていないこともあり、看護師としての業務も多いです。定期的な胃ろうカテーテルの交換を外来で実施し、他病棟へ褥瘡管理のため横断的に活動することもあります。病棟看護師として、日々患者さんを見守りながら、アセスメントをして必要であれば特定行為を実施しています。スタッフからの相談を受けることも多く、医学的な面から考えてアドバイスをしたり、勉強会を開催しています。

当院における特定ケア看護師の役割は、医師の負担軽減はもちろん、悩んでいる看護師のフォローもあると考えます。外来中、手術中、他院へ診療で出かけているなどで医師にすぐ聞ける環境でないからこそ、特定ケア看護師として対応できることは対応しています。

研修を受けて特定ケア看護師になりましたが、私は看護師であり医師ではありません。自分にはできないことはできないと言い、緊急性が高いと判断すればすぐに医師を呼ぶように心がけています。このアセスメントや判断ができるようになったのは研修のお陰だと思っています。今までは“見る”だけでしたが、“診る”ことを学び、その2つの視点からアセスメントしています。“診た”ことを看護師として看護やケアにつなげていくことも特定ケア看護師の役割だと思っています。

私たちは診断はできません。しかし患者さんの身体に何か変化が起こった時、診断をして治療を開始するまでの準備をすることは可能だと考えています。看護師は患者さんのそばにいる時間が長いです。変化を感じとったときに、身体所見をとり、必要と考える検査オーダーをして、これから起こり得る出来事を予測し医師に報告して、スムーズにタイムリーに治療を開始するための準備をすることも特定ケア看護師としての役割であり、効率的な動き方だと考えます。

#### 今後の課題

私自身の課題としては、学習の継続、多くの経験を積むことだと思っています。そして学び続ける意識と姿勢を持ち、挑戦することを忘れない気持ちも常に持っているべきだと思っています。

ます。今は病棟で経験を積み、そしていずれは、在宅へ移行をして働くことが求められていることだと思っています。そのためにも今は病院で多くの経験をしてアセスメント力を高めていく必要があると思っています。

#### おわりに

研修を終えて自施設に帰って特定ケア看護師として活動していますが、まだまだ不安を感じながら学習不足だと落ち込む時も多くあります。本当にこの働き方でいいのか、医師、看護師、コメディカルが特定ケア看護師に何を求めるのかフィードバックを受け続ける必要があると感じています。毎日悩みながらですが、指導してくださる先生方、支えてくださる看護部長をはじめとする看護師の皆様、そして理解を示してくださる患者様に感謝の気持ちを忘れずに特定ケア看護師として成長し続けたいです。

